



青森県で発生したカボチャ果実斑点細菌病について

青森県産業技術センター野菜研究所 近

こん 藤

とおる 亨

はじめに

青森県におけるカボチャの出荷量は、農林水産省野菜生産出荷統計（2019年）によると1,460tほどであるが、特に県内下北地域、今別地域では、1株に1果だけ結実させて栽培する「一球入魂カボチャ」が地域ブランドの高級カボチャとして生産されている。ところが2018年、県内下北地域においてカボチャ果実に大小のいぼ症状が発生し、大きな被害を受けた。そこでこの原因を詳細に調査したところ、*Pseudomonas syringae* pv. *syringae* によるカボチャ果実斑点細菌病の発生が明らかとなった（近藤・達，2020）。本病の発生は、東北地域における初確認であるので、ここに紹介し今後の被害拡大防止に役立てていただければと思う。

なお、本研究は農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター 達瑞枝博士との共同研究により行われた。また、現地調査および現地被害写真等の提供は、青森県下北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室 松田正利氏の協力によるものである。ここに記して深く感謝申し上げます。

I 発生状況および病徴

2018年8月、県内下北地域にあるむつ市のカボチャ栽培露地圃場1地点において、果実障害が発生したため、調査を行った。障害発生圃場における作型は、定植日5月26日、交配日6月28～30日の1果採り露地栽培であった。カボチャ品種は‘ダークホース’であった。圃場は水田転作畑で、カボチャの連作が7年目であり、栽培面積は15aであった。被害果には、かさぶた状の大きなものから直径数mm程度の小さなもので、多数のいぼ状突起が形成されており、軽度のものも含めると80%以上の果実に症状が認められた（図-1a～c）。障害発生圃場のカボチャ株では、下葉周縁部からの枯れ上がりが認められた。今回の調査は既に収穫期を迎えていた



図-1 カボチャ果実斑点細菌病の被害および病徴
a：被害発生状況。b：果実の病徴（かさぶた状の大型突起）。
c：果実の病徴（小型突起）。

Bacterial Spot of Squash Caused by *Pseudomonas syringae* pv. *syringae* in Aomori Prefecture. By Toru KONDO

（キーワード：カボチャ、果実斑点細菌病）